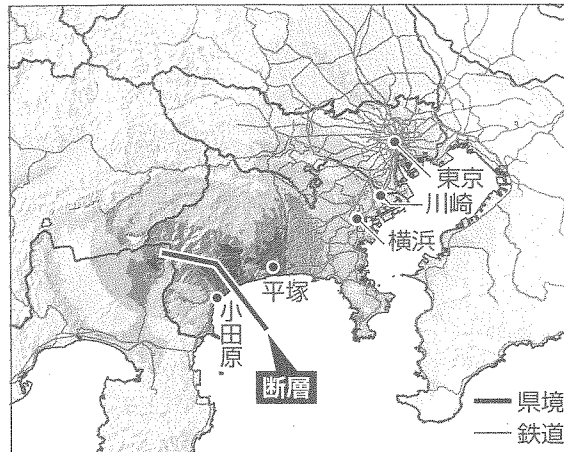


◆神縄・国府津-松田断層帯が動いたときの 予測震度分布図

(地震調査研究推進本部提供の資料から作成)



小田原「震度6強以上」

神奈川西部 直下型地震 予測改訂

政府の地震調査研究推進本部は22日、静岡県東部から相模湾にかけて神奈川県西部を走る活断層「神縄・国府津-松田断層帯」がずれて発生する直下型地震を想定した予測震度分布図を改訂し、公表した。

関東地方の地盤などに関する最新データを用いて、震度を再評価。地震そのものの規模はマグニチュード7.5で変わらないが、神奈川県や東京都の平野部で揺れが強まった。予測震度は、神奈川県小田原市や平塚市の平野部で6強以上、横浜市や川崎市の一部で6弱、東京都や埼玉県の荒川沿いの低地で5強となった。同本部は、この断層で30年以内に地震が発生する確率を0.2～16%と予測している。